

毎日新聞にて、当社の地域再生に向けた取り組みが紹介されました

このたび、2025 年 5 月 26 日付の毎日新聞朝刊にて、当社グループ会社「ネイチャーイン大瀬館」（本社：静岡県沼津市大瀬崎）が取り組む地域再生型の不動産投資事業について紹介されました。

記事では、大瀬崎で運営する宿泊施設「ネイチャーイン大瀬館」を拠点に展開している、環境配慮型の宿泊体験と、デジタル証券（セキュリティトークン）を活用した新しい投資スキームについて取り上げていただきました。

大瀬崎は富士山を望む駿河湾に面した自然豊かな地域で、ダイビングスポットとしても知られています。ネイチャーイン大瀬館ではこの地の魅力を活かしながら、施設整備や地域防災対策に資する資金を社債「大瀬崎みらいにつなぐ債」として発行し、地域と投資家の新しいつながりを生み出す取り組みとして注目を集めています。

記事では、「持続可能な未来へに向けた投資のかたち」として、以下のポイントが紹介されました

- ・デジタル技術を活用した直接金融の仕組み
- ・宿泊施設の整備を通じた地域経済への波及効果
- ・自然と共生しながら地域資源を活かすモデル
- ・将来的には環境価値と連動した不動産投資の可能性

当社は今後も、不動産が持つ社会的価値を活かし、地域と共創する新しい投資のあり方を提案してまいります。

ネイチャーイン大瀬館 HP : <https://natureinn.jp/>

毎 日 新 聞

海に潜ると多様な生き物に出会い、見上げると雄大な富士山。西伊豆の大瀬崎（静岡県沼津市）は駿河湾に約1キロ突き出た岬で、風の影響を受けにくい湾内では、ほぼ毎日ダイビングができる。東京駅から新幹線などを乗り継ぎ2時間弱、不動産会社のレーサム（東京都千代田区）が地元の打診を機に、経営難の宿泊施設を子会社化し「ネイチャーイン大瀬館」（26号）を昨年オープンさせた。

「駿河湾は約2500歳の深さがあり、迷い込んだリユウグワツカイなどの深海魚やマンボウなどに遭遇することもあります。この大自

持 続 可 能 な 未 来 へ

For the Sustainable Future

レーサム

地域再生へ 投資に新手法

然に魅せられた人々の輪で、地域再生につながるスキームを模索しました。と話すのは、法務・ストラクチャリング部主任の松本まひるさん。

創業70年の旧大瀬館は地域で最も歴史のある宿泊施設だった。経営破綻すれば地域経済に波及する。一方、この施設だけ再建しても地域全体の未来は望めない。そこで資金調達の手段として採用したのが、ブロックチェーン技術を使ったセキュリティトークン社債。大瀬崎みらいにつなぐ債（総額1000万円、満期3年）と名付け、子会社が1月に発行した。社債資金は施設改修などに加え、緊急避難経路の整備など地域共通の防災対策にもあてられる予定。不動産再生は大口の投資に頼りがちだが、デジタル化で細かく分割。5万円から購入でき年利は1・50%。無料宿泊券などの特典も用意した。

「新しい直接金融の手法を取り入れたのは、大瀬崎のファンが豊かな自然を支え、地域の成長を促す。其感投資の土台を築くため。地域に魅力があれば、銀行などの融資だけに頼らずとも、自走できるようになる」と松本さん。

大瀬崎一帯にはヒノキ科のビャクシンが百数十本自然群生して国の天然記念物に指定され、「神地」などのパワースポットもある。今後もデジタル社債の発行を検討しており、地域再生・環境保全と不動産投資を組み合わせた事業モデルを構築していく方針だ。

【沼田石洋史】

（第3種郵便物認可）



駿河湾越しに望む富士山と大瀬崎＝レーサム提供